

第18回

【特別対談企画】

汗を流す「一人」に思いを馳せてこそ  
歴史の継承と発展はかなう。

虎屋十七代当主 代表取締役社長  
黒川光博氏

創業は  
室町時代の後期

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

パリにも店を構え  
和菓子を販売

虎屋の味を作り出しているのだと思います。  
黒川さんは、室町時代の後期、確か京都が発祥なんですよ。  
そうですね。当時から御所に納めする菓子の仕事をさせていたっていました。明治維新で京都から東京に明治天皇が遷御される際に、道中で召し上がっていた和菓子を用意する必要もあって、京都の店をそのまま残して東京に本拠を構えるようになりまして。

和菓子も時代によって新しいものも生まれていると思いませんか？

黒川さんは、時代によって新しいものも生まれていると思いませんか？  
そうですね。研究開発などもありますが、和菓子作りは随分前からあります。和菓子作りは随分前からあります。和菓子作りは随分前からあります。

家業を継ぐ前は  
都市銀行に勤務

黒川さんは、都市銀行に勤務していたと聞きました。家業を継ぐ前は都市銀行に勤務していたと聞きました。



家業を継ぐ前は  
都市銀行に勤務

黒川さんは、都市銀行に勤務していたと聞きました。家業を継ぐ前は都市銀行に勤務していたと聞きました。

次代を見据え  
「羊羹を世界へ」

黒川社長がプロデュースされた羊羹もちょっと食べてみたいですね。  
本日はお忙しい中、ありがとうございます。虎屋さんのますますの発展をお祈り申し上げます。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。



黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

黒川さんとは日本青年会議所時代知り合い、その後、著書などを通して経営の哲学とか生き方に触れる機会がございました。機会があったらぜひ一度、対談をさせていただけたらとかねてから思っておりまして、ようやく実現の運びとなりました。

島経営グループ 会長

島善昭



虎屋十七代当主 代表取締役社長

黒川光博氏

【Profile】 黒川 光博氏 虎屋十七代当主 代表取締役社長

くろかわ・みつひろ。1943年、東京都生まれ。学習院大学法学部卒業後、富士銀行(現みずほ銀行)に勤務。1969年に株式会社虎屋に入社し、副社長を経て1991年に代表取締役社長に就任。伝統を継承する一方で、「TORAYA CAFÉ」など新業態の店舗展開にも取り組み、老舗の名にあぐらをかかない新しい挑戦でスタンスを高めている。公職として全国和菓子協会会長、全日本菓子協会副会長、一般社団法人日本専門店協会顧問を現在も務めるほか、日本青年会議所会頭なども歴任した。著書に『虎屋 和菓子と歩んだ五百年』(新潮新書)がある。

家訓がなく、  
後代が縛られない

黒川さんは、家訓がなく、後代が縛られないという考えをお持ちです。島会長は、家訓は大事ですが、時代によって変えていく必要があると思います。

人を大切にする  
経営の理由

黒川さんは、人を大切にする経営の理由を語っています。島会長は、人を大切にする経営は、長期的な利益につながると思います。

黒川さんは、人を大切にする経営の理由を語っています。島会長は、人を大切にする経営は、長期的な利益につながると思います。

黒川さんは、人を大切にする経営の理由を語っています。島会長は、人を大切にする経営は、長期的な利益につながると思います。

黒川さんは、人を大切にする経営の理由を語っています。島会長は、人を大切にする経営は、長期的な利益につながると思います。

金沢は全国有数の和菓子処です。しかし、和菓子処ということは知られていても、全国の人に広く知られていない個別のスランドは、冷静に見れば残念ながらありません。そこで今回は、私が30代の頃に所属していた日本青年会議所(JC)での先輩にあたる、虎屋の黒川光博社長に対談をお願いしました。黒川社長は1982年に日本青年会議所会頭を務め、土光臨調の支持など強いリーダーシップを発揮されています。また、社業においても、虎屋をナショナルブランドに育て上げ、和菓子の製造販売業としては異例な年商約190億円を実現されています。500年の歴史を誇る老舗のれんを守りつつ、どのように発展の加速を導いてきたのか。事業承継時のエピソードも含め、お聞きしました。